ロールシャッハ・テストが世界中にあって本当に良かった！

ロールシャッハ・テストの誕生100周年

2019年7月18日

ロールシャッハ・テストは2021年で100歳を迎えます！ この歴史的な記念すべき瞬間に立ち会うことができるのは、とても幸運なことだと思います。

この機会に、ロールシャッハ・テストの活用法がどのように発展してきたのか、過去100年を振り返ってみたいと思います。一方、それだけではなく、これから100年のうちにロールシャッハ・テストがどうなっていくのかということを考える機会にもしたいと思います。

ヘルマン・ロールシャッハは1921年に『精神診断学（Psychodiagnostics）』と10枚の図版を公刊しましたが、その図版が100年間形を変えずにアセスメントツールとして使われていることは、本当に驚くべきことです。私たちは図版を今も使い続けています。なぜならば、役に立つからです！妥当性があって、有用性があるからです。それでも、差し迫った問題もあります。「今から100年後にロールシャッハ・テストはどうなっているのか？」という問いかけです。次世代のためにいかにロールシャッハ・テストを発展させ、次の100年にも残していけるのかを、私たちが考えていかなければなりません。さもなければ、ロールシャッハ・テストは過去の遺物として歴史の本にしか登場しなくなってしまうでしょう。

この大会に参加される皆様には、展示、掲示、発表などのさまざまな情報から刺激を受けるだけでなく、それと同時に、けれども、それと同時に、これからの世代に向けてロールシャッハ・テストを成長、生存させられるような創造的なアイディアを生み出す面白さも味わってほしいと思います。

　ISR第23回大会「ロールシャッハ100年記念大会」の概要は次の通りです。

＜主　催＞　国際ロールシャッハ及び投映法学会理事会

＜テーマ＞　ロールシャッハと投映心理学：人間理解を育んできた100年

　　＜日　程＞　2021年7月12－16日（12日はワークショップを開催）

　　＜開催地＞　ジュネーヴ大学医学部（スイス）

　大会準備のために、組織委員会は多くのプロジェクトを企画しています。そのいくつかをご紹介します。

　• マップ・プロジェクト：1921年にスイスで公刊されたヘルマン・ロールシャッハの『精神診断学』と10枚の図版は、いかにして世界に広がり、定着し、発展していったのか。その歴史をたどります。

• ビデオ・プロジェクト：ロールシャッハを使ったことで患者/クライアントに大きな効果がもたらされた出来事について、各国のロールシャッハ・テスト実践家に語ってもらいます。その語りを収めた10本から20本程度の短いビデオを編集し、ロールシャッハ・テストを用いたアセスメントが人々の現実の生活にどのような影響を与えてくれるのかを示します。

　• ヘルマン・ロールシャッハの博士論文の４か国語（英語、フランス語、スペイン語、日本語）への翻訳

　• ヘルマン・ロールシャッハ・アーカイブス博物館による展示

　• Rorschachiana等による出版プロジェクト

この記念的行事の主役は、今これを読んでいる会員の皆さま、各学会の会長、そして参加者全員です。シンポジウム、口頭発表、ポスター発表、どのような形で参加するのか、どうぞ今から計画を立て、準備を進めてください。そして、関連領域の人たちにも口コミで参加を呼び掛けてください。関連領域としては、医療、教育はもちろん、芸術、歴史も該当します！

ISRのウェブサイト（[www.rorschach.com](http://www.rorschach.com）)）に重要なお知らせを随時掲載しますので、定期的なチェックをどうぞお忘れなく。

国際ロールシャッハ及び投映法学会（ISR）

会長　中村紀子 Ph.D.